

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第67号

令和7年

8月発行

発行者

広尾町中高一貫教育推進委員会

北海道広尾高等学校長 田村 郁夫

今年4月に広尾高校に着任しました、田村郁夫を申します。広尾町中高一貫教育連絡協議会の会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

本協議会の活動としては、5月の中高合同部会を皮切りに、事務局会議（年間7回）、推進委員会（年間3回）、連絡協議会（年間2回）等を通じて、中高の連携を深めてまいります。さらに中高合同清掃や生徒会交流、教科間連携によるSCC（中高一貫相互乗り入れ授業）などが行われています。また、高校生活について中学生に説明する「中高一貫語り場」や進路実現を果たした高校3年生による「中高一貫進路講話」、自ら体験したインターンシップ活動発表を含む総合的な探究の時間発表会、授業参観や特別支援研修会など

様々な活動を通じて、生徒間や教職員のつながりが保たれています。SCCでは、高校生が中学生を指導する場面や高校教員が中学生に、中学校教員が高校生に授業を行う、など相互に学び合う場が提供されています。また、英語検定や漢字検定、数学検定を合同実施するなど、連携を深める活動が行われています。

「広尾町連携型中高一貫教育」は平成18年度（2006年度）にスタートし、今年で20年目を迎えました。「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」という理念の下、多くの町民や教職員の協力を得て、歩みを進めてきました。この理念に基づき、「中高一貫教育の柱」として「教育の基礎・基本の定着」を重視し、小学校（幼稚園・保育園）からの一貫性を保ちながら、中高一貫教育を実践してきました。今後はこの経験を礎に、より効果的な取組を進めていきたいと考えています。

広尾高校としては、広尾の子どもたちが、中高一貫教育の様々な取組をとおして、地域に根ざした教育を実践し、生徒たちが自らの希望を実現できるよう支援してまいります。また、「地域の未来の担い手」となるべく、個別に対応した指導をさらに充実させ、地域理解と探究を深めてまいります。

中学生の保護者が「広尾高校に魅力を感じ、我が子を通わせたい」と思い、中学生が「広尾高校に通って自己実現を図っていききたい」と感じる学校づくりを念頭に置きながら、引き続き、中学校との信頼関係の構築し、地域に貢献できる教育実績を築いていきたいと考えています。広尾町の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



広尾町中高一貫教育合同部会議開催のご報告

5月2日（金）に広尾中学校において、広尾町中高一貫教育合同部会議を開催いたしました。

（１）会議の経過

開会挨拶として広尾町中高一貫連絡協議会長の田村郁夫広尾高等学校長、山岸直宏教育長にお話をいただいたあと、中高一貫教育の目指す方向性などについて全体会議で確認をしました。



（２）中高教科部会の様子と実践テーマ

今年度の教科部会は、国語科、社会科、数学科、理科、英語科、保健体育科、家庭科、養護の8部会に分かれて開かれました。

①『国語科部会』

- 1 生徒が論理的に展開する文章を書けるようになるための作文指導の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化を親しむための授業の在り方

②『社会科【地歴・公民】部会』

- 1 中高6年間を見通しての学びの手順の確立を目指す。
- 2 それぞれの指導力向上を目指した、各校での授業実践に対する交流。

③『数学科部会』

基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指した数学的活動の工夫およびチーム・ティーチングの充実



④『理科部会』

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間を見通しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発

⑤『英語科部会』

生徒自身が、自分の学習到達度を理解できるCAN-DO-LISTとClassroom Englishの効果的な運用

⑥『保健体育科部会』

- 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさを深く味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める。
- 2 運動における協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲や態度を育てる。

⑦『家庭科部会』

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統的な学習内容により、家庭生活における基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるTTの実践による生徒個々の能力に応じた個別指導の充実

⑧『養護部会』

- 1 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対応策の検討
- 2 生徒・地域の実態をふまえた保健指導・カウンセリングの充実



(3) 各分掌部会の様子と実践テーマ

①『教育課程・学習指導部会』

基礎学力の向上と主体的な学習態度の育成を目指す
～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

②『特別活動・生徒指導部会』

- 1 学校行事を共同開催し、中学生、高校生が連帯感を高め、協力性を学ぶ。
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践を行う。

③『進路指導・総学部会』

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長
- 4 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

④『広報啓発部会』

中高一貫教育だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民への広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。

⑤『特別支援部会』

- 1 中高の連携・協力した指導・支援方法・支援計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み

子どもが自分で自分を伸ばしたくなるような風土づくりを

広尾町立広尾中学校長 齊藤 芳秀

本校の中学生や私たち職員が地域でいつも大変お世話になりありがとうございます。校長の齊藤でございます。

昨年4月に本校に赴任し、1年間中高一貫の推進事業に触れ、さまざまな取組を拝見させていただきました。

中でもとりわけ、この事業の要に位置づけられるのは、中学生が生まれて初めての岐路に立つ自身の「進路選択・実現」にどう向き合うか、いわば「自立に向けての通過点」をどう過ごすかを考える潤沢な材料を得られることにあります。

「中高一貫語り場」では、中学生が高校生から高校での学習、生活、卒業後の進路について大変現実的な話をいただき、

中学校では与えられない「生きた教材」として進路選択の動機付けの一助となっています。また、「中高一貫進路講話」では、大学・短大・専門学校・就職を間近に控え自立へと羽ばたく3年生の生徒さんたちから、ご自身の生き立ちも交えた進路選択・決定までのプロセスを真剣に語っていただいています。

さらに、2022年度から高等学校で導入されている「総合的な探究の時間」を踏まえ、広尾高校では「探究学習成果発表会」を開催し、中学生にも学びの成果を開いてくださっています。町内のインターンシップで得た勤労の意義、防災を意識した自然と共生する町づくり、未来につながる持続可能な町づくりの提言等、若者らしい柔軟な発想を帯びた発表は、中学校でも履修が位置づけられている「総合的な学習の時間」（本校では「ひろお学」もその一部）のゴールイメージを体現してくださっています。

広尾高校の今年度の重点教育目標は「セルフプロデュース力を身に付ける」と掲げられており、あらゆることに挑戦する、まずはやってみる、行動することで自己成長につなげる生徒を育成する、とうかがっております。あわせて、広尾中学校の今年度の重点教育目標は「自立に向けて前向きに！～自分で自分たちで～」です。中高の重点教育目標を並べてみただけでも、どんな子どもたちに育ててもらいたいのかという共通の願いが容易に浮きあがります。それは、子どもたちの自己肯定感・効力感を高めつつ、「自分で自分を伸ばす力を育てる」ということです。今年度の中高の貫きどころは、ここ一点だと言えます。

私たち大人は、今以上に目まぐるしく激動する社会や世界を自分の力で生き抜けるよう、子どもたちを導く役目を担っています。さらにそうした人材を育む営みが、未来ある町づくりにも直結します。中高一貫を一例に、蒔いた数々の種が芽を出し結実していくように、学校・家庭・地域ぐるみで子育てのイメージや人材を育む一体感ある風土づくりをいっそう前進させることが求められます。



高校の取り組みにつきましては、本紙のほかに、下記ホームページでもご紹介しております。広尾町のページでは、本紙のバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご訪問ください。



広尾高等学校公式 HP



広尾町公式 HP